

犬山の教育の重要施策 2004

学びの学校づくり

—主体的な授業改善に向けての学校の自立—

学校の裁量による教育課程の編成と学校の裁量を取り入れた学級編成とによって、「学校の自立」を図り、子ども自らが学ぶ楽しさを味わい、共に高め合い、確かな学力と豊かな心を培うことができる「学び」を実現していく。

犬山市教育委員会

1 学校の自立による「学び」の実現

各学校の裁量による教育課程の編成と学級編成とによって「学校の自立」を図り、子ども自らが学ぶ楽しさを味わい、共に高め合い、確かな学力と豊かな心を培うことができる「学び」を実現していく。

1 主体的な授業改善 — 教師の手づくりによる学びの教室づくりの推進 —

(1) 創意ある教育課程の編成 — 2学期制の実施 — (資料1)

2学期制の実施によって生み出された余裕ある授業時数を基に、特色ある教育課程を編成し授業実践する。

ア 教材の自主的な開発と活用

- ・ 基礎・基本を確実に身につけ、個に応じた発展的教材に意欲的に挑戦できるよう、教師が子どもの実態をふまえた教材の開発に努め、授業で有効活用する。
- ・ 副教本「算数・理科・国語」を活用し、補充・発展学習の充実を図る。

イ 絶対評価の利点を生かした指導と評価の一体化

- ・ 絶対評価規準を踏まえ、学習のめあて（目標）を基に作成した学校独自の自己評価カード等を指導に役立てる。
- ・ 評価の積み重ねを通して、子どもは学習への挑戦意欲をもち、教師は指導をふり返り、授業の組み立てを確かなものとする。
- ・ 到達状況によっては、学習のまとめとして、補充・発展学習を習熟度別に行うなど、個別指導の充実を図る。

ウ 子どもとのふれ合い

- ・ 子どもに到達状況を正確に知らせ、学習にめあてをもって意欲的に取り組めるよう教師と子どもとの学習相談等の機会を多く設定する。

(2) 自主的な学級編成の工夫 — 授業改善犬山プランの実施 —

見方・考え方の異なる子どもが互いに意見を交わし、認め合い、切磋琢磨し、より高い価値を獲得していく学び合いによる学習集団、信頼のある学級集団づくりをするにあたって、30人程度の学級編成による学びを目指す。

○ 少人数学級に少人数・TT授業を組み合わせた授業改善 (資料2)

- ・ 学年や教科の特性に応じて、少人数・TT授業を積極的に取り入れ、個を生かす指導法を工夫する。
- ・ 授業計画を立案するにあたって、教材配列や到達状況を踏まえて柔軟な学習形態を工夫する。

(3) 授業改善に専念できる体制づくり — 支援対応人材の導入 —

ア 校務分掌の簡素化、学校運営の効率化

支援対応人材の導入を契機として、校務分掌の見直しによる簡素化、学校運営の効率化を進め、教師が授業改善に専念できるようにする。

イ 教師相互の連携の強化

学習進度や到達状況或いは評価方法、教材開発等について学級(教科)担任と非常勤講師、学級(教科)担任相互とで共通理解を深め、授業改善に役立てる。

2 教師の資質や指導力の向上を図る自主的な研修 — 現職教育の充実 —

(1) 公開授業 — 教師の「学び」の場づくり —

(裏面)

各学校月1回程度授業を公開し合い、授業研究での情報・意見交換によって、教師の資質や指導力の向上を図る。

- ・ 絶対評価を生かした効果的な自己評価カード等の活用
- ・ 協同学習等の指導技術の向上
- ・ 補充・発展学習の指導法の工夫
- ・ 少人数授業、TT授業における指導技術の向上
- ・ 副教本の適正かつ有効な活用
- ・ 総合的な学習における教育課程の編成・指導計画の工夫

(2) 犬山授業改善交流会 — 教師の「学び」の質の向上 —

(資料3)

・ 公開授業の集大成として、全国に犬山の授業改善の取り組みの成果を発表し、交流し合い、「学び」の授業の充実と発展を目指す。

公開授業 平成16年10月18日(月)～10月29日(金) 午前中迄

犬山授業改善交流会 平成16年10月29日(金) 午後

(3) 学校訪問・要請訪問 — 「学びの学校づくり」の一環 —

日常の授業実践の積み重ねと直接結びつくものとし、現職教育と絡めて「授業改善」につなげる。

(4) シンポジウム教育のまち — 「学びの学校」づくりの充実・発展 — (資料4)

「学びの学校」づくりを充実・発展させるための課題について方向性を見いだす。

3 「学びの学校」づくりを支える学校・家庭・地域との連携

「学びの学校」づくりを充実させるために、教師・保護者・地域住民との相互理解と連携を深める。

- ・ 学校行事や総合的な学習等で保護者・地域住民と積極的に関わり、参加・参画を促し、信頼された学校・開かれた学校づくを推進する。
- ・ 保護者・地域住民に授業を公開し学校への関心を高め理解・協力を得る。

II 学校施設・設備 — 学びの環境づくり —

新しい教育実践を支援し、子どもに豊かな「学び」を保障するために、主体性を発揮できるような学習環境の整備を図る。

1 「学びの学校づくり」を視点とした学校建築計画を推進する。

昨年度、学校現場の教職員を中心に「学びの学校建築検討委員会」で検証した「学びの学校建築基本構想素案」の報告の成果を発展的に捉え、羽黒小学校を視野に入れた学校建築構想の基本設計の素案を作成する。そのために委員会を設置する。

2 安全で快適な施設整備

地震等災害への対策として、平成15年度実施した内藤式校舎の緊急補強調査の結果を基に、補強工事を平成16年度・平成17年度で実施していく。

III 子ども期から始まる生涯学習の充実

1 「子ども大学」の開催

(資料5)

- ・ 子どもたちが学校では学べない体験活動を通して、達成感や満足感を味わえるように、地域の教育力の有効な活用を図る。
- ・ NPOの活用等により、教育活動の支援を積極的に進める。

2 生涯スポーツ

- ・ 生涯スポーツとしての中学校部活動のあり方と部活動の活性化・充実を図る。

犬山市内小中学校「学校公開日」

本年度は市内の小中学校が下記のような予定で「学校公開日」を設けています。保護者・地域の皆様にもぜひ参観・参加いただき、子どもたちの成長をご支援いただければ幸いです。なお、皆様にご覧いただく「公開授業」は教員の相互研修の場でもあり、市内の学校の教員が指導技術を高めるための交流の機会にしたいとも考えておりますのでよろしくお願い致します。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
犬山北小学校	21(水)	13(木)	1(月)	6(火)	9(木)	21(木)	26(金)		13(木)	15(火)	
犬山南小学校	22(木)	28(金)	3(木) 19(土)	12(月)~16(金)		27(水)	21(日)	6(月)~10(金)	14(金)	3(木) 19(土)	8(火)
城東小学校	23(金)	24(月)	21(月)		6(月)	25(月)		6(月)	27(木)	14(月)	
今井小学校	22(木)	25(火)	28(月)	6(火)	16(木)	26(火)	17(水)	9(木)		8(火) 24(木)	
栗栖小学校	22(木)	20(木)	17(木)	12(月)	13(月)		15(月)	6(月)		17(木)	
羽黒小学校	23(金)		7(月) 13(日)	8(木)		25(月)	21(日)	9(木)	20(木)	10(木)	
楽田小学校	27(火)		5(土) 14(月)		26(日)	26(火)	20(土)		25(火)	22(火)	
池野小学校	26(月)	20(木)	10(木)	15(木)	9(木)	25(月)	18(木)	9(木)	20(木)	19(土)	
東小学校	23(金)		6(日)	2(金)	16(木)	28(木)	1(月)	6(月)	18(火)	18(金)	
犬山西小学校	22(木)		13(日)	5(月)		26(火)	22(月)		28(金)	22(火)	
犬山中学校	27(火)	25(火)	14(月)	7(水)	21(火)	25(月)	13(土)	17(金)	20(木)	14(月)	
城東中学校	17(火)	22(土)	19(土)	14(木)~16(金)	29(水)	28(木)	5(金) 6(土)	6(月)~8(木)	25(火)	25(金)	
南部中学校	28(水)		19(土)	5(月)		26(火)	12(金) 13(土) 18(木)		13(木)	15(火)	17(木)
東部中学校	22(木)	22(土)	15(火)		29(水)	22(金)	4(木) 11(木) 13(土)	18(土)	21(金)	7(月)	

* 学校の事情等で、公開日が変更されることもあります。詳しくは各学校へお問い合わせください。

犬山だからできる2学期制

副教本作成と活用から教育課程の再編成

- ・ 副教本を作成し、その活用を図るために教育課程に位置づけたことから、教育課程再編成への動きが生まれた。

少人数授業の導入によって絶対評価の可能性を拡大

- ・ 少人数学級、少人数授業、チームティーチング授業の導入により、評価がいっそうきめ細かくできるようになり、絶対評価の可能性が広がった。



犬山市2学期制検討委員会
犬山市教育委員会

3 学期制と 2 学期制の比較

【3 学期制】

学期	1 学 期					2 学 期				3 学 期						
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
行 事	春 休 期 入 始 学 業 式 式			個 人 懇 談	終 業 式	夏 休 期	始 業 式			個 人 懇 談	終 業 式	冬 休 期	始 業 式		卒 修 業 了 式 式	春 休 期
通 表 知				☆						☆					☆	

【2 学期制】

学期	前 期						後 期							
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
行 事	春 休 期 入 始 学 業 式 式				夏 休 期	終 業 式	秋 休 期	始 業 式			冬 休 期		卒 修 業 了 式 式	春 休 期
通 知 表 と 評 価 資 料			☆			☆			☆			☆		☆

(☆は通知表配布 ☆は評価資料配布)

犬山市 2 学期制検討委員会

相澤 陽一 (東小)	松山 輝久 (城東中)	栗林 典昭 (犬山西小)
松永 秀視 (東小)	山内由美子 (犬南小)	小嶋希志江 (犬西小)
高田 憲明 (犬西小)	稲垣 江美 (楽田小)	池山真理子 (羽黒小)
田中 久徳 (犬西小)	古川 文子 (東小)	井戸 真澄 (犬北小)
小川 俊典 (羽黒小)	元安ちづ子 (犬南小)	小藤恵美子 (城東小)
佐藤 信子 (今井小)	中西 俊雄 (羽黒小)	川崎 徹 (東小)
宇野 恵子 (東小)		
大角 秀夫 (城東中)	河村 雅之 (犬山中)	勝村偉公朗 (犬山中)
岩田 和敬 (城東中)	前田 親利 (南部中)	鍵野 英夫 (南部中)
林 直彦 (東部中)	富士道 晃 (東部中)	

2学期制導入 — 子どもが挑戦意欲をわかせる学びの実現を目指して —

事業実施期間
平成27年度
5/27～5/31

学校独自の教育課程の再編成

○ 個に応じた学びを目指して作成した副教本を活用して授業の改善を図るとともに、学校の独自性を発揮できる教育課程を再編成したい。

評価（通知表）の改善

○ 少人数学級、少人数授業、TT授業の導入により、子どもの主体的な学びを実現し、評価を学習意欲の向上につなげたい。

授業改善

〈手だて〉

2学期制の導入

ねらい

授業時間の確保

学期のスパンの長期化

教育課程の改善で生まれる40時間の活用

2学期制の枠組み	
①学期	
前期	4/1～10月第2月曜日（体育の日）
後期	10月第2月曜日（体育の日）の翌日～3/31
	※ 通知表は、年2回
②長期休業日	
夏休み	7/21～8/29（2日削減）
秋休み	10月第2火曜日～2日間（夏休み2日間の振り替え）
	※ 10月の第2土、日、月、火、水は5連休
冬休み	12/24～1/6（現行通り）
春休み	現行通り

ゆとりをもってじっくりとていねいに評価

教育課程の再編成

再編成のポイント

- 副教本をより有効に活用するための教育課程
 - 基礎学力の習熟を図り、発展的な内容に取り組みさせるための指導の時間を教育課程に位置づける。
- 学校の独自性を発揮できる教育課程の見直しと再編成
 - 各学校で特色ある教育課程づくりに取り組む。
 - 行事等の見直しにより、学校経営の改善を図る。

評価（通知表）の改善

改善のポイント

- 通知表の改善
 - 3回の通知表を2回にして、豊富なデータをもとに通知表を作成する。
 - 学習意欲を高めるために、到達度や努力すべき目標を明確に示す。
 - 教師が個に応じた評価の観点を設定できるように通知表に担任数人の観点記入欄を設定し、学習意欲を高める。
- 評価方法の改善
 - 少人数指導、TT指導等により評価の精度を高め、じっくりと評価する。
 - 教師の評価に子どもの自己評価を取り入れて、保護者へ定期的に学習到達状況を知らせ、評価情報不足への不安を解消する。

- 学校、担任が授業の創意に基づいた学校独自の教育課程を編成することにより、創想あふれる学びの学校づくりが実現する。
- 個々を大切にしながら教師がじっくりと指導と評価に取り組むことにより、子どもの学習の喜びや挑戦意欲を高めることができる。

平成16年度実施「授業改善犬山プラン」実施状況
—各学校の工夫による少人数学級実施—

2004. 4. 12
犬山市教育委員会

1 趣旨

犬山市教育委員会は、教科の習得の高まりが自ら学ぶ意欲を引き出す「授業づくり」を大切にしたい「学びの学校づくり」を最重要課題と位置づけて授業改善に取り組んできている。

平成13年度・14年度と犬山市においては、少人数授業、TT授業などを本格的に取り入れ、学級編成を工夫し授業改善を進めてきた。その際、どの教科で、どの学年で、どのように「しくむ」かは、各学校の創意工夫にまかせてきた。

15年度は、既に、少人数学級実践校として、城東小学校が1年生で、羽黒小学校が6年生で、楽田小学校が4年生で過大学級を解消している。

16年度は、さらに各学校に広がりをもたせ、該当学校で二学級程度の過大学級を解消する方向で検討した。その結果、校内の工夫により、教務主任、校務主任等を学級担任として、少人数学級を実現し、さらに、少人数授業等も併せて行う「授業改善犬山プラン」を実施する。

2 基本的な考え方

○ 教科の特性や一人一人の子どもたちの特性を見極め、創意工夫された教育課程に応じた効果的な授業運営のための学級編成は、教育現場の判断に任せた。

○ これまでの少人数授業の成果から学習集団と生活集団を生かした集団が一致する少人数学級では、規模縮小の積極的な意義がより発揮されることが期待できる。40人以下学級における犬山市内14校の少人数授業の学びを高める実践からも、学習集団と生活集団が一致する学級規模の人数は、30人が節と考え、30人程度の学級の実現を目指す。

平成16年度は、小学校の県費教員による1年生35人学級のみならず、校内努力によって少人数学級を実現していく。各学校がこの少人数学級を校内の現在の県費職員で対応することができるのは、小学校の場合は、教務主任、校務主任等が学級担任となる二学級増までである。また、中学校の場合は、学級数の規模で対応されている教員定数の内の現在学級担任をしていない教諭(学年付き教諭や校務主任など)によるそれぞれの学校の状況による学級増となる。

○ 少人数学級を授業改善に結びつけるが、これまでの各学校の少人数授業の実践も重視する。このことは、学級の人数を減らして制度としての少人数学級にするだけでなく、少人数学級を授業改善に結びつけ、少人数授業やTT授業、複数学級による合同の学級編成など、様々な編成により創意工夫された授業の創造を目指すものである。

・ これまでの各学校の個に応じた指導法の開発(小学校算数で15人から20人、中学校英語、数学で16人から20人)から、20人以下の学習集団による授業改善を継続する。

各学校が取り組んでいる算数・数学、英語は、系統性が強く、基礎基本の定着にも差が生じやすいので、どの子にも確実に基礎基本を取り込ませる必要があり、これまでの15人から20人の授業を継続する。

・ 平成14年度から取り組んできた理科のTT授業を継続する。小学校は、理科専門の講師を配置することにより実験・観察を適切に位置づけた魅力のある授業の創造を目指す。中学校は、理科教育に携わった講師を配置し、楽しさと喜びを豊かにする授業の創造を目指す。

3 平成16年度実施「授業改善犬山プラン」

この「授業改善犬山プラン」を実現するためには、学校経営そのものの見直しや工夫改善が必要であり、学校運営機構の見直しと、少人数学級対応の小学校の非常勤講師、教科対応の中学校の非常勤講師、校務支援助、学校経営支援の人材派遣のあり方などを検討した。

しかし、この案であっても34人を超える学級があり過大学級は完全には解消できない。

○ 過大学級解消の学校経営努力

県費職員による学級担任増を見定めていくためには、学校経営そのものの工夫改善が重要であり学校運営機構の見直しが必要である。

○ 教育委員会の人的支援

教務主任、校務主任が学級担任となることによる学校経営・学校運営の支援が必要となる。

・ 小学校の学級増にともなう学級対応非常勤講師の任用

・ 中学校の学級増にともなう教科対応非常勤講師の任用

16年度増額 小学校学級対応 11名増

中学校教科対応 8名増

・ 校務主任が学級担任になることによる校務支援

校務支援

・ 校務主任 教務主任が共に学級担任になることによる学校経営支援

学校経営支援

※ 児童の転出入によって人的支援は、流動的に考えざるをえない。

○ 施設設備の充実

・ 学級増設備費等 14学級

・ 犬山西小学校・城東小学校普通教室を平成15年度に改修等

平成16年度「授業改善犬山プラン」実施状況

一各学校の工夫で少人数学級実施一

○印 学級増

2004.4.12

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	学級増 増加数	学級増 対応				16年度 市非常勤 講師学級 授業対応		16年度 県加配	
	1学級 児童数	1学級 児童数	1学級 児童数	1学級 児童数	1学級 児童数	1学級 児童数		担任 校務主任	教務主任	校務支援	経営支援	常勤	非常勤		
	学級数	学級数	学級数	学級数	学級数	学級数									
犬山北小	25 ○ 4	30 3	34 3	29 3	28 ○ 4	27 3	20 2	1	1	1	1	4	2	1	1
犬山南小	32 3	30 3	29 3	28 3	28 3	28 3	18 3					3		1	
城東小	35 3	30 ○ 4	32 2	26 ○ 3	28 3	31 2	17 2	1	1	1	1	4	2		1
今井小	4 1	4 1	10 1	6 1	6 1	3 1	6 1					1			
粟栖小	6 1	2 1	9 1	3 1	4 1	8 1	4 1					1			
羽黒小	28 3	28 3	27 3	30 3	29 3	32 3	18 3					3		1	
桑田小	29 ○ 5	31 4	32 4	31 4	30 ○ 4	33 3	24 2	1	1	1	1	4	3		1
池野小	16 1	5 1	15 1	16 1	11 1	11 1	6 1					2			
東小	25 ○ 4	30 3	35 3	24 ○ 3	34 3	31 3	19 2	1	1	1	1	4	2		1
犬山西小	34 3	34 3	27 ○ 4	31 3	27 3	27 3	19 1	1		1		3	2	1	
学級数	28	26	25	24	26	22	151	5	4			29	11	4	
学級増	3	1	1	2	2	0	9	9		5	4				4

	1年	2年	3年	学級数 合計	学級増	16年度 市非常勤 講師	16年度	
	1学級 生徒数 学級数	1学級 生徒数 学級数	1学級 生徒数 学級数				常勤	非常勤
犬山中	32 ○ 7	34 ○ 7	38 6	20	2	9	2	2
城東中	33 4	30 ○ 4	32 4	12	1	4	1	2
南部中	35 4	32 ○ 5	35 4	13	1	4	2	2
東部中	28 ○ 4	31 4	34 3	11	1	5	1	2
学級数	19	20	17	56	5	22	6	2
学級増	2	3	0	5	5			8

小学校	9学級増	14	62
中学校	5学級増		

○ 平成16年度の実態

- 小学校【各学級が34人を超える学年 9学年の内 7学年で各1学級増】
 【1年生33人の学級を25人にする学年を2学級増】
 * 小学校で一学級が34人を超える学年は、9の学年となり、その内7つの学年で34人を超える学級を解消した。さらに、1年生を25人にする学校が2学級増となり、9人の学級担任を増やした結果、全151学級中148学級が34人以下となり、98%をしめる。
- 中学校【各学級が34人を超える学年 9学年の内 5学年で各1学級増】
 * 中学校で一学級が34人を超える学年は、8つの学年となり、その内5つの学年で34人を超える学級を解消した。5人の学級担任を増やした結果、全56学級中42学級が34人以下となり、75%をしめる。
- 各学級34人を超える学年 5学年が解消できない。
 * 一学級が34人を超える学年が5学年あり(全207学級中17学級:8%強)、34人を超えた学級が残る。

2004. 5. 28

2004授業改善交流会（案）

2004授業改善交流会実行委員会

1 趣旨

犬山市では、学びの学校づくりをめざして、少人数授業・少人数学級・二学期制を導入してきた。それらを生かし、いかに授業を改善していくかの研究実践を進めている。これらの実践について交流する場として、全校が公開日を設定するとともに、犬山授業改善交流会を次のように持つ。

- 学校の自立を旨として、各学校の創意工夫を生かした授業公開をする。
- 各学校独自の取り組みを自然な形で公開（授業公開）し、お互いの研修の場とする。
- 現職教育のテーマに「授業改善」への取り組みを掲げ、各小中学校では、具体的な改善に向けた取り組みを行っている。その実践の様子を公開し合い、意見交換をすることによって、より”実”のある授業改善へ向かいたい。

2 テーマ「 子どもが生きる学びの教室づくり 」

3 日程・会場

- 公開週間 10月18日（月）～29日（金）

18日（月）	19日（火）	20日（水）	21日（木）	22日（金）
			犬山北小 2～4限	東部中 5限
25日（月）	26日（火）	27日（水）	28日（木）	29日（金）
城東小 2・3限 羽黒小 5限 池野小 5限 犬山中 2～4限	今井小 5限 楽田小 5限 犬山西小 1～5限 南部中 1～5限	犬山南小 1～4限	東小 1～4限 城東中 1～5限	授業改善 交流会

※ 詳細については後日

- 「授業改善交流会」 14:30～16:30
 ・ 10月29日（金）午後日程
 小学校部会（犬山市立東小学校）

14:00	14:30	16:30
受付	授業改善交流会	

中学校部会（犬山市立城東中学校）

12:50	13:50	14:30	16:30
第4限の授業	移動	受付	授業改善交流会

4 主催 授業改善交流会実行委員会

5 方法内容

(1) 企画立案

- ・ 授業改善交流会実行委員会を組織して企画運営にあたる。

委員会組織

委員長	奥村英俊 (犬山中学校長)
副委員長	大島一夫 (池野小学校長)
	大矢恵一 (犬山市教育委員会指導課主幹)
庶務	伊藤敏 (池野小学校教頭)
	松浦茂樹 (犬山中学校教頭)
委員	(市内各校の教務主任14名)

- ・ 実行委員会は、市内教務主任会議の開催日に時間を取る。その他は必要に応じて開催する。
- ※ 詳細は実行委員会で決定

(2) 公開週間

各学校の計画により公開日を毎月1回程度設定するが(犬山の教育の重要施策2004参照)、授業改善交流会2週間前には、全小中学校が授業を公開する公開週間とする。

- ・ 市内外の教員の研修の場とする。
- ・ 公開のテーマ(現職教育テーマ等)を設け、公開の目的を明確にする。
- ・ 授業公開日の1~2週間前には主な内容を市内各校に配布する。
ホームページ等で公開することも可とする。
- ・ 授業公開日は、地域・保護者を含め広く公開する機会ともする。

(3) 授業改善交流会

☆小学校分科会 <テーマ別分科会> 各分科会20名程度

テーマ「指導と評価の一体化による学習の推進」

A 指導を中心として

「少人数指導における指導方法と学習形態」

「TT指導における指導方法と学習形態」

「少人数指導における教材の開発と活用」

B 評価を中心として

「基礎基本の定着を図るための評価」

「学びを積み重ねていくための評価」

(評価カード等)

☆中学校分科会 <テーマ別4分科会> 各分科会25名程度

テーマ「より高い価値を獲得していく学び合いの推進」

A 授業改善①

「指導形態(TT・少人数)」の工夫

B 授業改善②

「学び合いの形態」の工夫

C 基礎基本の定着にむけて

「教材の開発」

D 評価にかかわって

「自己評価カード」の活用

- ※ 午前中授業とし、給食後児童生徒は下校することを原則として工夫する。

(4) 参加者

- ・ 事前にFAXで参加申し込みをする。(人数把握・学校安全管理上)
- ・ 市内外の教職員が参加する。

5 参加申し込みのご案内

平成16年10月22日（金）までに、参加申込票に必要事項を記入いただき下記あてにご送付ください。
（FAX 可）

なお、10月18日（月）～29日（金）の期間中に、教職員の研修交流を目的とした授業公開を市内の全小中学校で実施し、10月29日（金）の午後に市内の教職員全員参加による「授業改善交流会」で成果と課題を協議します。本年度のシンポジウムは「授業改善交流会」の内容を引き継いで行います。各校の「授業公開」や「授業改善交流会」への参加希望がありましたら犬山市教育委員会までお問い合わせください。

シンポジウムのお申し込み先

〒484-0802 犬山市羽黒安戸西一丁目2番地 犬山市立東小学校
TEL(0568) 67-5400 FAX(0568) 69-0337

問い合わせ先

犬山市教育委員会 学校教育部 指導課
TEL(0568) 61-1800（内線 250） FAX(0568) 62-2292

6 会場案内

○ 犬山市立○○○学校
〒484-0000
犬山市（ ）
TEL(0568) ○○-○○○○

----- キリトリセン -----

平成16年度 シンポジウム「教育のまち」参加申し込み票

学校・団体（ ） TEL（ ）

職名等	お名前	住所	電話	自家用車
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

2004.5.24

平成16年度 シンポジウム「教育のまち」(案)

学びの学校づくり

—主体的な授業改善に向けての学校の自立—

主 催 犬山市教育委員会・犬山市小中学校PTA連合会・犬山市教育研究会

犬山市小中学校の本年度の最重点課題は、「学びの学校づくり」を一層発展させるために、各学校の裁量による教育課程の編成と学級編成とによって学校の自立を図ることです。「学校の自立」は教育課程の編成や学級編成が学校に任されてこそ成果が上がるものと考え、犬山市では学校の創意を重視した教育施策を実現してきました。そして、市内小中学校14校では「公開授業」並びに「授業研究交流会」をはじめ、その他の機会も教員研修の場と捉えて、「子どもの学び」を保障できるような授業改善に取り組んでいます。

そこで本年度の「シンポジウム教育のまち」は、重要施策「学びの学校づくり」の実現に向けた、それぞれの学校の具体的な取り組みについて成果と課題を持ち寄り、共通認識を深め、新たな方向性を生み出していく場と位置づけました。授業改善に向け、学校の判断に基づく主体性をもった学校独自の取り組みについて、前期を終えた中間点の頃に議論を交わし、学校の自立に向けた状況を検証していきます。

討論1では、「学びの学校づくりを目指した創意ある教育課程の編成と評価のあり方」をテーマとして、2学期制の導入を契機として各学校が工夫して生み出した授業時間数の活用や、教師の手作りによる副教本の活用、子どもが意欲的に学びを積み重ねていく評価のあり方を中心に議論をします。

討論2では、「学びの学校づくりを目指す自主的な学級編成と学校経営」をテーマに、校務主任・教務主任・学年付きの教員が学級担任をすることによって実現を図った少人数学級の必要性や、それを支える学校運営機構の改善等について、今後のあるべき方向性を探ります。

学校・家庭・地域が一体となって、自分たちの手で「学校を創り上げる」取り組みを真剣に考えたいと思います。多くの皆様がご参加くださいますよう、下記のようにご案内申し上げます。

記

1 日 時 平成16年10月30日(土) 9:10~16:10

2 会 場 犬山市立 ○○○学校 体育館

3 日 程

8:50	9:10	9:30	9:50	10:00	12:30	13:30	16:00	16:10
受付	あいさつ	開会に就いて	休憩	<討論1> 基調提案 トーク	昼食 休憩	<討論2> 基調提案 トーク	閉会 連絡	

4 内 容

司会 犬山市教育委員会 松 山 輝 久

(1) あいさつ 9:10 ～ 9:30

犬 山 市 長 石 田 芳 弘

(2) 開会に当たって 9:30 ～ 9:50

犬山市教育委員会 瀬見井 久

(3) 討論 I 10:00 ～ 12:30

テーマ	「学びの学校づくりを目指した創意ある教育課程の編成と評価の在り方」 － 2 学期制の実施に伴って－	
ねらい	<p>学習指導要領が最低基準であることを踏まえて作成された算数・理科・国語の副教本（教師の手作りによる教材開発）の活用や、教師による自主的な教育課程の編成を可能にした 2 学期制の実施により、生み出された時間数の活用等について意見交換をします。学校独自の教育課程をどのように編成し実践しているのか、基調提案をもとに参加者のトークを通して、どこがどのように変わったか明らかにしながら、よりよい方法を模索します。また、子ども一人ひとりが学びの達成度や新たな問題解決への意欲を、子ども・保護者共に実感できる評価、日々の学びを自己評価カード等によって確かめながら積み上げていく過程に重きを置いた評価のあり方を教師・保護者と共に考えます。</p>	
司 会 運 営	犬山市立〇〇〇学校長	○ ○ ○ ○
	犬山市教育委員会〇〇	○ ○ ○ ○
基調 提案	<p>① 創意ある教育課程編成に基づく授業改善 －副教本等の活用を通して－ 犬山市立〇〇学校長 ○ ○ ○ ○ (15分)</p> <hr/> <p>② 「学び」の過程を確かなものとする評価の在り方 －学びの姿が分かる評価・授業を変える評価－ 犬山市立〇〇学校長 ○ ○ ○ ○ (15分)</p>	
トーク 参加者	教 師 ・ 保 護 者 ・ 犬 山 市 教 育 委 員 会 等	
コメン テーター	東京大学大学院教授	荻 谷 剛 彦 (15分)
	東京大学大学院教授	小 川 正 人 (5分)

(4) 討論Ⅱ

13:30～16:00

テーマ	「学びの学校づくりを目指す自主的な学級編成と学校経営」	
ねらい	<p>子どもの「学び」を主体とした授業改善に向けて、30人程度の少人数学級の実現を図った。その際、現状で学級担任ができるのは校務主任・教務主任との判断から、学校の裁量により両者を学級担任にすることにした。このことによってどんな授業、どんな学級経営が可能となったか。さらに、少人数・TT授業を組み合わせることによって子どもの学びにどのような変容が見られるようになってきたか、具体例を挙げて確かめていきます。また、授業改善を主体に据え、全職員による「子どもの学び」の支援を進めるための学校運営機構はどうあるべきかについて、支援対応人材との連携も含め、トークを通して考えます。</p>	
司会 運営	犬山市立〇〇〇学校長 犬山市教育委員会〇〇	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
基調 提案	<p>① 自主的な学級編成による授業改善 ー校務・教務主任を担当にする少人数学級の実現と少人数・TT授業を組み合わせた指導ー 犬山市立〇〇〇学校長 ○ ○ ○ ○ (15分)</p> <hr/> <p>② 授業改善を主体とした学校経営 ー自主的な学級編成に伴う学校運営機構の改善ー 犬山市立〇〇〇学校長 ○ ○ ○ ○ (15分)</p>	
トーク 参加者	教師 ・ 保護者 ・ 犬山市教育委員会 等	
コメン テーター	東京大学大学院教授 東京大学大学院教授	小川正人 (15分) 荻谷剛彦 (5分)

敬称略

(5) 閉会・諸連絡

* トークの場面では、参加者の皆様からのご意見をいただく時間をとりたいと考えています。積極的な発言をお願いいたします。

5 参加申し込みのご案内

平成16年10月22日（金）までに、参加申込票に必要事項を記入いただき下記あてにご送付ください。
(FAX 可)

なお、10月18日（月）～29日（金）の期間中に、教職員の研修交流を目的とした授業公開を市内の全小中学校で実施し、10月29日（金）の午後に市内の教職員全員参加による「授業改善交流会」で成果と課題を協議します。本年度のシンポジウムは「授業改善交流会」の内容を引き継いで行います。各校の「授業公開」や「授業改善交流会」への参加希望がありましたら犬山市教育委員会までお問い合わせください。

シンポジウムのお申し込み先

〒484-0802 犬山市羽黒安戸西一丁目2番地 犬山市立東小学校
TEL(0568) 67-5400 FAX(0568) 69-0337

問い合わせ先

犬山市教育委員会 学校教育部 指導課
TEL(0568) 61-1800 (内線 250) FAX(0568) 62-2292

6 会場案内

○ 犬山市立○○○学校
〒484-0000
犬山市 ()
TEL(0568) ○○-○○○○

----- キリトリセン -----

平成16年度 シンポジウム「教育のまち」参加申し込み票

学校・団体 () TEL ()

職名等	お名前	住所	電話	自家用車
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

入 学 案 内

犬 山 市

子 ども

大 学

休みの土曜日を活用して「新しい発見」や「楽しい体験」をしてみませんか！分野の専門家や地域のボランティアの方々が皆さんの学習を支援してくれます。友だちといっしょに「子ども大学」に参加しましょう！！

子 ども 大 学 募 集 要 項

- ◆ 申込み方法
 - ・下記の専用ハガキに必要事項を記入し切手を貼り送りください。(一人一枚)
- ◆ 申込み受付
 - ・4月14日(月)～28日(月) 郵送の場合(当日消印有効)
 - 直接の場合 教育委員会学校教育部の窓口へ
- ◆ 申込み先
 - ・〒484-0083 犬山市大字犬山字東古券322の1
 - 犬山市教育委員会 学校教育部指導課
- ◆ 結 果
 - ・受講決定については、返信用はがきにてお知らせします。
 - ・各コースとも定員を超えた場合は抽選とします。
- ◆ そ の 他
 - ・学科によっては、若干の教材費・入場料が必要になる場合もあります。
 - ・返信用はがきの宛名には、保護者の氏名も書いてください。

開 講 式 ・ 修 了 式

- ◆ 開 講 式 5月25日(日) 午前9時30分より 犬山市民文化会館
- ◆ 修 了 式 各学科別に修了式を行い、修了証を授与する。

【コミュニケーション学科】

内 容 基本的な単語や表現を用い、使える英語を身につける。
 講 師 河合塾学園トライデントスクール講師と学生
 会 場 市内各小学校7校
 対象学年 小学4年生から6年生まで
 開講回数 18回 受講者数 各会場30名
 開 催 日 別紙参照
 活動時間 午前中 受講料 前期・後期各9,000円(材料費も含む)

【科学実験学科】

内 容 一人ひとりの自分の手で楽しく科学実験する。
 講 師 河合塾講師と学生
 会 場 市内各小学校7校
 対象学年 小学1年生から6年生
 開講回数 18回 受講者数 各会場30名
 開 催 日 別紙参照
 活動時間 午前中 受講料 前期・後期各9,000円(材料費も含む)

【国際理解学科】

内 容 外国人講師と触れあい、楽しく身体全体を使った体験英語学習の実践を行い「話せる英語」を目指して、会話中心の活動を行う。
 講 師 NPO教育支援協会の協力会員(外国人講師3、日本人講師3)
 会 場 南部公民館、楽田ふれあいセンター、福祉会館

対象学年 小学1年生から3年生まで
開講回数 12回 受講者数 各会場30名
開催日 6/7、21、28 7/19、26 8/2、23、30 9/6、13、20、27
活動時間 午後1時30分～午後3時

【情報教育学科】

内 容 パソコン操作技能を習得し、生活に役立てる。〈インターネット操作〉
講 師 名古屋経済大学関係者と学生
会 場 名古屋経済大学ほか
対象学年 小学4年生から6年生まで
開講回数 10回 受講者数 各会場20名
開催日 夏休み中
活動時間 午前10時～12時

【福祉学科】

内 容 ボランティア活動に参加し、実践的な福祉活動を体験する。
講 師 市内のボランティアの皆さん
会 場 福祉会館ほか
対象学年 小学3年生以上
開講回数 10回 受講者数 20名
開催日 6/14、28 7/24、25 8/6、7 9/20 10/25 11/15 12/13
活動時間 午前10時～12時

【自然科学】

内 容 野鳥観察を中心に、樹木・水生動物の観察、巣箱づくりなどの活動をする。
講 師 県自然観察指導員、野鳥の会等の皆さん
会 場 野外活動センター、東大演習林ほか
対象学年 小学4年生以上
開講回数 13回 受講者数 30名
開催日 6/7、28 7/5 8/16 9/6 10/4、18 11/15、29 12/6 1/17 2/21 3/13
活動時間 午前8時30分～12時

【地域学習学科】

内 容 桃太郎見学隊を編成し、桃太郎神社周辺の歴史・施設等を学習する。
講 師 施設の学芸員・研究員、ナイスで犬山会員等の皆さん
会 場 桃太郎神社、日本モンキーセンター、京都大学霊長類研究所等
対象学年 小学4年生以上
開講回数 10回 受講者数 30名
開催日 6/14、28 7/12 8/8、19 9/13 10/25 11/22 12/13 1/24
活動時間 午前9時～12時

【邦楽学科】

内 容 篠笛・三味線の演奏に挑戦し、邦楽に親しむ。
講 師 市邦楽教育研究会、大学講師、技術指導員
会 場 勤労青少年ホーム
対象学年 小学4年生以上
開講回数 各10回 受講者数 50名(笛35名、三味線15名)
開催日 夏休み 7月3回、8月4回 冬休み 3回
活動時間 篠笛 9時30分～11時 三味線 13時30分～15時

【美術学科A】

内 容 いろいろな紙に楽しく絵を描く。おもしろい方法で絵を描く。
講 師 市文化協会役員、会員の皆さん
会 場 南部公民館、福祉会館
対象学年 小学生から中学生
開講回数 15回 受講者数 各会場20名
開催日 6/14、21 7/19、26 8/16 9/6、13 11/8、29 12/6、20 1/17 2/7 3/20、24
活動時間 9時30分～12時

【美術学科B】

内 容 創り上げる楽しみを共有しよう。
 講 師 美術指導員
 会 場 楽田ふれあいセンター
 対象学年 小学4年生以上
 開講回数 15回 受講者数 15名
 開催日 6/7、21 8/28、29、30 9/13、20 10/11、25 11/8、22、29 12/13、14、20
 活動時間 9時30分～12時

【犬山原始人クラブ】

内 容 火おこし器・石器・縄文土器作りなどを通し、原始時代の人々の生活を体験する。
 講 師 市社会教育指導員ほかの皆さん
 会 場 野外活動センター、学校ほか
 対象学年 小学5、6年生
 開講回数 12回 受講者数 30名
 開催日 6/7、21 7/12、28、29、30 9/20 10/11、25 11/8 12/6、20
 活動時間 9時～12時

【からくり学科】

内 容 「からくり」を通して郷土犬山の文化を体得する。
 講 師 市からくり指導員ほかの皆さん
 会 場 どんでん館
 対象学年 小学4年生以上
 開講回数 10回 受講者数 20名
 開催日 6/7、21 7/5、19 9/6、20 10/4、18 11/1、15
 活動時間 9時30分～12時

郵便往復はがき



50円切手を貼ってください。

返信

(あなたの住所氏名)

へこの折り目を内側にして折る

キリトリ線

平成15年度 犬山市子ども大学
入学申込書

名	フリガナ	性別	男・女
前			
住	〒		
所	TEL		
学	学校		
校	年 組		

希望する学科名を○で囲む(1学科に限る)

1	コミュニケーション	8	邦 楽
2	科学実験	9	美 術 A
3	国際学習	10	美 術 B
4	情報教育	11	犬山原始人
5	福 祉	12	か ら く り
6	自 然	13	手遊びゲーム
7	地 域 理 解	14	茶 ・ 華 道

様

【手遊びとゲーム学科】

内容 伝承遊びや身近なゲームを友だちと楽しむ。
講師 市社会教育指導員ほかの皆さん
会場 ふれあい図書館（犬山西小学校）
対象学年 小学4年生以上
開講回数 10回 受講者数 20名
開催日 6/14、28 7/12 9/13 10/18 11/15 12/6（以後未定）
活動時間 9時30分～12時

【茶・華道学科】

内容 古来の伝統文化に親しむとともに礼儀作法を身につける。
講師 茶華道専門講師
会場 国際観光センター（予定）
対象学年 小学4年生以上
開講回数 10回 受講者数 15名
開催日 6/7、28 7/12、19 8/9、23、30 9/6、21 10/4
活動時間 9時30分～12時

案内の問い合わせ先

犬山市教育委員会学校教育部指導課

〒484-0083 犬山市大字犬山字東古券322の1
電話 (0568) 61-1800 (内線 261)

郵便往復はがき

キリトリ線

50円切手を貼ってください。

4 8 4 0 0 8 3

往 信

犬山市教育委員会
学校教育部指導課
行

犬山市大字犬山字東古券三三二の一

(申込先)

へこの折り目を外側にして折る

平成15年度 犬山市子ども大学
結果通知および受講票

(応募者記入欄)

受講を希望する学科
受講会場名

(教育委員会記入欄)

○ あなたの希望する学科を
1 受講できます。
2 抽選の結果、残念ながら受講できません。

このはがきが受講票になります。開講式（5月25日）の当日、受付にこの受講票を提出してください。